

# 災害時の備えとして、 携帯トイレや簡易トイレを準備しておこう

## 大きな災害が発生したら、トイレを使う前に災害用トイレを設置しよう

大きな災害が発生し、電気・水道・ガスなどのライフラインが停止したとき、私たちの生活に欠かせない水洗トイレは使えなくなる可能性があります。トイレの水を流せない状況で排せつをしてしまうと、どんどん詰まって使えなくなってしまいます。

もし、あなたが被災し、ライフラインが停止している状況で、避難先や自宅にある既存のトイレを使う際には、必ず携帯トイレや簡易トイレを設置してから排せつするようにしましょう。



## 携帯トイレの使い方を覚えておこう ～洋式トイレの場合～

まず携帯トイレを取り付ける前に、便器が使用可能かどうか、安全を確認してください。

- ①便座を上げて、便器に大きめのポリ袋（15L程度）をかぶせ、便座をおろして袋を挟む。  
※袋を二重にすることで、携帯トイレの袋が濡れず、衛生的に使用できます。  
※携帯トイレの商品によっては、ここで取り付けた大きめの袋が付属していない場合もあるので、あらかじめ確認をしておきましょう。
- ②便座を覆うように携帯トイレの袋を取り付け、凝固剤や吸収シートを袋の中に入れる。  
→携帯トイレの設置完了！
- ③排せつ後、拭いた紙も携帯トイレの袋に入れて、空気を抜いてしっかりと結んでください。



### 災害用トイレとセットで準備しておくの良いもの

- ・トイレトーパー
- ・おしりふき
- ・手を拭くための除菌シート
- ・携帯用シャワートイレ など

## 108SMILE 市民活動団体紹介

つながり. 21

「鳥羽市民コーラス  
はまおぎ」

108SMILE ホームページ  
URL <https://108smile.jimdofree.com/>



市民課人権・市民交流係  
☎ 25 1126

「鳥羽市民コーラスはまおぎ」の結成は、32年前にさかのぼります。当時、安楽島小学校と鳥羽小学校の保護者によるPTAコーラスがありました。2つのコーラスが、一緒に活動しようということになり、市内全域のコーラスグループ「はまおぎ」が誕生しました。室町時代の連歌集にうたわれた「所変われば名もかわる」浜辺の葦も、伊勢のはまおぎから、現在の「鳥羽市民コーラスはまおぎ」が名付けられました。「はまおぎ」というのは、伊勢地方の「葦」の呼び名です。「人間は考える葦である」というパスカルの名言があります。すが、それにちなんで、「考える」「哀愁」「音楽」が葦の花言葉になっています。

おまな活動として、お母さんコーラス大会への参加・市内でのミニコンサート開催・市民文化祭出演・そのほかにも、かたがらぶか劇団に「かたらぶかコーラス隊」として参加したり、介護施設や病院などを訪問し歌声を届けたりすることもあります。

活動が続いている秘訣は、なんと「言ってもみんな歌うことが大好きであること。指揮者・伴奏者の熱意ある指導のもと、家族の協力を得て、楽しく練習に取り組んでいます。」

鳥羽の街に歌があふれるようにしたい。もつとたくさんの人に参加して欲しいと願っています。

メンバーは、現在20人、毎週水曜日の午後7時30分から9時まで堅神公民館で練習しています。

お腹から大きな声を出すことは、ストレスの発散にもなります。また、歌の歌詞にいやさ、励まされま。

さまざまな披露の場を通じて、その共感の輪を広げていきたいです。

歌の好きなかたも歌の苦手なかたも一緒に歌いませんか？ぜひ一度、堅神公民館へ見学に来てください。大歓迎です！

